

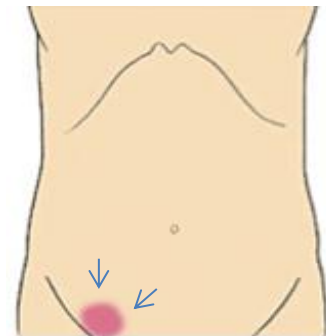
本当は怖い!? ^{そけい}鼠径ヘルニア

鼠径ヘルニアという病気をご存知ですか？「だっちょう」といったほうが聞き覚えあるかもしれませんね。子供の病気と思われがちですが、むしろ高齢者の方が多いい病気なのです。

人間は二足歩行をするようになって、四足動物と異なり常に下腹部に体重がかかるようになりました。このため、立ち仕事の多い方や内臓脂肪の増えた方が年をとると、鼠径部という太もものつけねの部分の筋肉が弱くなり、お腹の中にあるはずの腸や内臓の一部が、皮膚の下に出てくる方がいます。これが「鼠径ヘルニア」です。組織がまだ成長していない子供や、高齢な方に多い病気です。

症状としては、立った時やお腹に力を入れた時に鼠径部の皮膚の下に腸の一部が出てきて柔らかいふくらみができます。指で押さえると引っ込みますが不快感や痛みを伴うこともあります。

ヘルニアは自然に治ることはなく有効な薬もなく、治療法は手術以外にありません。ヘルニアベルト(脱腸帯)なるものを使用している方もいらっしゃいますが全く治療効果はありません。今は痛みも少なく短期入院で済む新しい手術方法が普及しており、生活の質を考えると積極的に治療した方がよい病気なのです。痛くないからといって長年ほっておく人がいますが気付いたらすぐに受診するようにしましょう。なぜなら突然脱出した腸がお腹の中に戻らなくなり腐ってしまい、激烈に痛くなることがあるからです。これをヘルニアカントン(嵌頓)といい、命にかかわるため緊急手術で腐った腸を切除しなければなりません。



このあたりがはれてきたら
受診しましょう

手術方法は患者さんの病態やヘルニアの状態、外科医の経験度などから総合的に判断します。大きく分けて腰椎麻酔で行う鼠径法と全身麻酔で行う腹腔鏡下手術があります。

鼠径法は腰椎麻酔で鼠径部の皮膚を 5cm ほど切開し、ポリプロピレン製のメッシュで弱った部分を補強し、腸が出てくるのを防ぐ手術法です。全身麻酔ではないので意識がある状態で手術を行います。体に対する負担が少なく、心臓や肺の弱い高齢の方でも安心して受けていただけるのが特徴です。当院では手術後 3 日後に退院していただいています。

腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術は従来から行われているお腹を切開する鼠径法と異なり、腹腔鏡を使用してお腹の中から腸が出てくる穴(ヘルニア門)を直接閉じる手術です。まずお腹に 5mm の小さな穴を 3 カ所あけます。おへその穴から腹腔鏡を入れてお腹の中を観察してヘルニアの穴を見つけ、穴を閉じます。この手術の利点は傷あとが小さく美容的に優れ痛みが少ないことです。手術した当日から歩くことができます。当院では手術後 2 日目に退院可能で社会復帰が鼠径法に比べて非常に早いので、患者さんの満足度は大きいです。また鼠径法に比べ再発率が少ないことも大きなメリットです。この手術のデメリットとしては全身麻酔で行う必要があるため、極端に高齢な方や、心臓・肺が極度に弱い方には不向きであること、手術手技が難しく施行できる施設に限られるという点などです。当院では術前検査を行い、全身状態の良好な方には腹腔鏡下手術、極端に高齢の方や全身状態不良の方には鼠径法手術をお勧めしています。

鼠径部にふくらみがある方、違和感がある方は気軽に受診、相談なさってください。

【外科診療部長 広松 孝】

